

日本国政府は、11月3日付けで平成26年度秋の外国人叙勲受章者名簿（全57名）を発表しました。カンボジアからは、コン・ボーン氏（カンボジア教育支援基金代表兼カンボジア日本友好学園理事長。77歳、男性）が旭日小綬章を受章されました。同氏の功績概要は以下のとおりです。

1. 主要経歴

同人は、昭和45年～50年にかけて、日本の通信社で現地助手として働く。カンボジア人民共和国時代の強制労働を経て、昭和58年に難民として日本に定住。

平成4年、日本で「カンボジア教育支援基金」を設立し代表に就任。同基金を通じカンボジア国内に学校を5校建設。平成11年、5校目に建設した「カンボジア日本友好学園」の理事長に就任。同学園で日本語教育及び日本式教育システムの導入により高い成果を上げる。また、日本とカンボジアの交流に尽力し、今日に至る。

2. 対日功績

（1）カンボジア教育支援基金代表としての貢献

平成4年、日本で「カンボジア教育支援基金」を設立、同基金の代表に就任。同基金を通じカンボジアに学校5校を建設するなど、内戦直後の時期に、カンボジアとのパイプをほとんど有さない日本の個人・団体支援をカンボジアに届ける重要な役割を担い、現在の日本の各種NGO・NPOらが、カンボジアにおいて活動する基盤を作った。また、カンボジア国民の間に日本への感謝と尊敬の念を植え付けることに大きく貢献した。

（2）カンボジア日本友好学園理事長としての貢献

（ア）平成11年の同学園の開校以来、日本人の日本語教師を代々受け入れ、学生に対する日本語教育を行い、スバイリエン州における日本語教育の拡充に貢献。なお、同学園は、カンボジア国内において日本語の授業を有する唯一の国立中学・高校として、日本語人材の輩出に大きく貢献。

（イ）同人は、日本式教育システムを高く評価し、同学園の教育方針として採用。全日制教育、中高一貫教育、音楽教育、体育教育、道徳教育、コンピューター教育、学生間の教授等々を日本の学校をモデルに実施し、同学園を国内有数の進学校へ成長させ、日本式教育の普及と日本式教育の評判を高め、カンボジア人の日本人への敬意を高めることに大きく寄与した。

（ウ）また同人は、日本とカンボジアの相互交流及び相互理解の促進に貢献した。

（3）ジャーナリストとしての貢献

同人は、昭和45年～50年にかけて日本の通信社の現地助手として勤め、当時の日本のマスコミによるインドシナ関連情報の迅速・正確な報道に大きく貢献。また、著書（「殺戮の荒野からの生還」平成9年発刊）を日本語で出版し、カンボジア民主共和国成立前後のカンボジアの政治状況や国民の生活について詳細に記述し、我が国におけるカンボジアの近代史研究の進展に貢献した。 （了）